

初釜の会で 利用者と交流

観成園

駒ヶ根市北割一区の特別養護老人ホーム観成園で20日、初釜の会が開かれた。大法寺たちばな婦人会の会員らがボランティア訪問し、抹茶をたてて利用者と交流。赤穂公民館で活動するつくばね会のメンバーが踊りを、童唱こまくさのメンバーらが合唱をそれぞれ披露した。

毎年恒例の行事で、利用者も大勢参加。抹茶の用意も大忙しで、施設2階のふれあいホールは抹茶の香りいっぱい

いになった。ボランティアを代表して、たちばな婦人会の会長で童唱こまくさの代表でもある三浦賀津子さんが「お茶をいただいたり、踊りを見たり、歌を歌ったりしてひとときを楽しく過ごしてください」とあいさつした。

つくばね会の華やかな踊りに続き、童唱こまくさが今年の歌い初めを兼ねて合唱した。歌唱指導の横田良巳さんは「歌を歌うと、とっても元

気になります。健康のためにとてもいいので、一緒に歌いましょう」と呼び掛けていた。



抹茶を飲みながら合唱を聴く利用者たち